

## デスポーザーシステムと雨水貯留施設等との一体的整備に関する調査研究

全体期間

2001.12～2002.2

### (目 的)

民間のマンション等では、デスポーザー付きの排水設備が普及してきている。顧客の品質、性能に対する関心の高まりを受けて、付加価値の高い住宅供給が求められるとともに、環境問題からゴミの減量化や生ゴミのない快適な生活環境の形成等が求められる中で、その導入件数は今後とも増加していくことが予想される。

デスポーザーの導入にあたっては、下水道への接続前に処理施設を設け、これを設置者が適正に管理していくことが必要であるが、地区開発に伴って、雨水調整槽等の比較的広い地下空間を占有する施設を整備することが必要であるため、これらの施設を地下に錯綜して整備することが必要となる。一方、地方公共団体では、都市型水害の頻発、水質汚濁問題等への対応としての浸水対策や合流式下水道の改善が緊急かつ重要な課題として、それらの対策が進められているところであるが、対策の一つである貯留・処理方式では、施設の設置場所の確保等が課題となっている。

このため、本調査では、デスポーザー排水の処理施設と合流改善や浸水対策施設との一体的な整備手法等について検討することによって、周辺地域も含めた快適で安全なまちづくりに貢献するための基盤整備手法について提案するとともに、地方公共団体との連携、各施設の一体化・集合化等を図ることによって、公団住宅の付加価値の向上、効率的な基盤整備を図ることを目的とする。

### (結 果)

- ① デスポーザー排水処理施設、雨水貯留施設、合流改善施設等の一体的整備について、ケーススタディを行った。ケーススタディは、世田谷区の「アクティー三軒茶屋」のある三軒茶屋地区および「汐留H街区」のある汐留地区の各地区条件を用い、仮想的に実施した。
- ② デスポーザー排水と合流雨水あるいは晴天時下水との一括処理の可能性について検討を行った。
- ③ 開発に伴い必要となる施設と、開発に合わせて地域に必要な公共施設を一体的に整備することによる開発者および下水道事業者におけるそれぞれのメリットについて整理した。
- ④ デスポーザー排水処理施設、雨水貯留施設、合流改善施設等の一体的整備にあたっての官側と民側の今後の役割分担について整理した。

### (今後の課題)

- ① 開発事業と下水道事業等の他の公共事業との連携にあたっては、都市再生に向けて如何に効率的であるかを明確化する必要がある。
- ② デスポーザー排水の下水処理施設での一括処理の可能性等をより詳細に判断するためには、地下空間への設置の可能性と下流の処理区に対する負荷軽減効果、維持管理体制等についてさらに詳細に検討する必要がある。
- ③ 一体化事業の推進を円滑に行うためには、現行制度における地区開発状況等について課題整理を行うとともに、新たな制度設計に向けた案の検討、とりまとめを行う必要がある。

都市基盤整備公団からの受託研究

研究担当者：宮原 茂，栗林 栄，二階堂 悦生，野尻 希守

キーワード

デスポーザー，一体化事業